



こんにちは

Tokyo Metropolitan University International Student Letter

首都大学東京
留学交流誌

No.23 MAR.2010

首都大学東京留学交流誌No.23 平成22年3月発行
登録番号(21)129
発行 首都大学東京国際センター事務局国際交流会館1F
東京都八王子市南大沢一丁目1番地
〒192-0397 電話(042)677-2030
印刷 シンソー印刷株式会社

「こんにちは」とは・・・ What is "KONNICHIIWA" ?

「こんにちは」は首都大学東京に在籍する約230名の留学生の活躍ぶりや、留学生へのサポート体制、交換留学の体験談、これから留学を考えている人への情報提供などを紹介するために、毎年1回発行している小冊子です。

2009年度の主な行事

- 4月 新入留学生オリエンテーション・懇親会
- 5月 海外留学説明会
- 6月 留学生セミナー（山梨県河口湖方面）
- 10月 新入留学生オリエンテーション・懇親会
- 11月 大学祭
異文化理解講座
（日本で安全・快適に生活するための情報提供）
海外留学説明会
八王子地域 23 大学等留学生日本語弁論大会
（本学より 1 名出場）
- 12月 八王子市立柏木小学校国際交流
留学準備講座（海外留学のための事前研修）
- 3月 フェアウェルパーティー（卒業留学生送別会）

2009 International Student Events



6月留学生セミナー
富士山五合目にて



4月新入留学生オリエンテーション



12月柏木小学校国際交流会

留学生へのインフォメーション Information for International students

日本で安全な留学生活を送って頂くための
大切なお知らせです。

重要事項!

○引越をしたとき

14日以内に引っ越し先の役所に住所の変更の届出をして、「外国人登録証明書」の書き換えをする必要があります(国民健康保険についても変更手続きが必要です)。また、新しい住所を学部1,2年生は教務課、学部3,4年生、大学院生、研究生は所属する学部事務室に届け出て、新しい学生証裏面シールの発行を受けてください。

各届け出先に届けた後、国際センター事務局に必ず届けてください。

○定期券について

定期券が購入できるのは、学生証裏面シールに記載した住所(大学への届出住所及び外国人登録をした居住地と同居所)の最寄り駅から大学の最寄り駅までの一つの経路だけです。定期券の不正購入が発覚すると多額の料金を請求される場合もあります。規則を守って利用してください。

○国民健康保険について

1年以上日本に滞在する場合は、健康保険に加入する義務があります。健康保険に加入していれば、医療費の自己負担分は医療費総額の30%になります。

○アルバイトについて

在留資格「留学」をもっている留学生は、入国管理局で資格外活動(アルバイト)の許可(資格外活動許可書)を受けると、学業に支障のない範囲でアルバイトができます。アルバイトをするときは、常に許可書を携帯し(不携帯・期限切れも違法です)、許可されている時間内で合法的なアルバイトを行ってください。

※「副申書」(資格外活動の許可を得る為に必要な書類)の申請は国際センター事務局で受け付けています。

首都大学東京 外国人留学生国籍・地域別 在学生数 ※研究生を含む

2009年10月1日現在

地域	国名	人数
ア	中 国	142
	韓 国	26
	ベ ト ナ ム	10
	台 湾	9
ジ	インドネシア	5
	パングラディッシュ	4
ア	モンゴル	4
	マレーシア	3
	スリランカ	2
地	インド	1
	シンガポール	1
	タイ	1
	ネパール	1
	ミャンマー	1
	イラン	1
	シリア	1
中東地域	パレスチナ自治区	1
欧	オーストリア	3
	イギリス	1
	ブルガリア	1
アフリカ地域	ウガンダ	1
	エジプト	1
	セネガル	1
	チュニジア	1
	ナイジェリア	1
アメリカ	カナダ	1
	コロンビア	1
	ベネズエラ	1
合計	28カ国	226

形で自分を支えて頂いた方々に感謝を記したいと思います。もしこの記事を読まれている方の中にウィーン大学に限ら

ず海外留学を検討されている方がいらっしゃるならば、ぜひ留学されることをお勧めしたいと思います。

ウィーン大学からの交換留学

From Austria

「全ての点で楽しかった、首都大学東京の交換留学の一年について」

フローリアン プルカルトフォーファー
都市教養学部 人文社会系 FLORIAN PURKARTHOFFER (オーストリア)

私が首都大学東京で過ごした交換留学について思い出すといつも、色々な楽しい経験や出来事が思い浮かんできます。ウィーンで留学する前に、私は志望動機書に「日本語の言語能力を向上させるために日本に行きたい。」ということを書きましたが、日本では何をやるにしても日本語を練習したので、留学の間のことは全て興味深く、有意義な経験であったと思います。勉強することはもちろん交換留学の要点ですが、それ以外にも様々な興味深いことに出会いました。例えば、友だちを作ったり、日本の社会に触れたり、異文化を知ったりすることも楽しむことができました。

まず、一つ目は、私は学生寮に住んでいたため、日本人の仲間たちとの日常生活の経験を通じて直接日本文化に触れることができました。出身地を比べてみれば全く異なるのですが、友達やチューターに面倒を見てもらったりして、とても有意義に過ごしました。キャンパスのそばに住んで暮らしたことは、便利なことでありましたが、大学の雰囲気が好きで私にとって、とても良いことでした。

二つ目は、首都大学東京で部活動を見つけたことです。ウィーン大学でクラブや部活が全然ないので、私はそのことを知って大変驚きました。映画に興味があったので「Das Kino」と言うクラブの人たちに話したりしてみました。学生



南大沢キャンパスにて。右写真がフローリアンさん。

と話し合いの中で新しい考え方を発現することができたとし、親切な写真部の先輩の話から、写真への関心が高まりました。その結果として、私は自分自身でも写真を撮るようになりました。交換留学の一年が終わった後、首都大学でできたこの新しい趣味を続けることにしました。

三つ目は、日本の仲間たちと、互いに助け合いながら勉強していく中で貴重な経験を得たことです。一緒に日本語、ドイツ語や英語の問題について議論したり、自分のとは違った考え方を知ったり、学生室で並んで座って試験のために勉強したりしたことは実りのある経験であったと思います。世界的な環境で研究する仲間と出会って、同じ目標をもって勉強している人たちを見つけたことは、日本学を卒業した後に、日本学科の大学院に進学することを決心させてくれました。纏めれば、日本での留学中に、私は日本の親切な社会に触れることができました。出来る限り早期に、仕事や研究をするためにもう一度日本に行きたいと考えています。

アジア人材育成基金留学生

Asian Human Resources Fund Scholarship

首都大学東京大学院では、東京都による「アジア人材育成基金」を活用した奨学金制度を2008年度より開始しました。現在13名のアジア出身留学生が、この奨学金制度により博士後期課程で学んでいます。今回は2008年10月に来日し、システムデザイン研究科および宇宙航空研究開発機構(JAXA)にて学ぶタンクウェックス TZEさんの研究活動についてご紹介します。

「My Research Work on Composite Materials ～複合素材に関する研究について」

システムデザイン研究科 航空宇宙システム工学 博士後期課程2年 TAN KWEK TZE (シンガポール)



JAXA 複合材技術開発センターにて X 線 -CT 機と TAN さん。

In a wink of an eye, it has been more than one year since I enrolled in the Doctoral program in Tokyo Metropolitan University Department of Aerospace Engineering. I have to admit that it has been a fulfilling and enriching experience for the first year of my Doctoral course, with many things learnt and achieved.

My research area is on Composite Materials. Composite materials are as strong and stiff as traditional metals, but are extremely light weight. This makes their application on aircraft structures particularly beneficial, resulting in structural weight reduction, increase in fuel efficiency and extended flight range. With composite materials making up more than 50% of structural weight, both Boeing 787 Dreamliner and Airbus A350WXB are evidence that the demand and use of composite materials in aviation industries continue to grow tremendously over the next few years.

However, one main weakness in composite materials is their poor interlaminar strength. You can imagine the structure of composite materials as having many layers of strong fibres embedded in a plastic matrix, which resembles the multilayer structure of *baumkuchen*. As such, composite materials are strong in the plane direction but each layer can be easily peeled off from one another.

My current research is to improve this major weakness by implementing stitching into the composite material, which means having another

strong fibre binding the layers together.

Our research team in TMU is able to determine the increase in interlaminar strength by using computational modeling as well as experimental testing. We have compared the use of different stitch materials and presented our findings in the largest International Conference on Composite Materials (ICCM-17) held in Edinburgh UK in July 2009.

So far I have also published our result findings in two international journals: *Journal of Composite Materials* on the evaluation of interlaminar strength and *Composite Structures* on the bridging law of stitched composites. My latest work involves the investigation of the impact resistance of stitched composites. I performed some of my experimental works using the state-of-art facilities in Japan Aerospace Exploration Agency (JAXA), which include the Impact Test Machine that can calculate the dynamic response of a material upon impact, as well as the micro Computed Tomography (CT) machine which can detect the internal damage of composite materials unobservable by naked eye. Our Watanabe laboratory in TMU Hino campus is recently equipped with new testing facilities like the Instron Universal Test machine to evaluate the mechanical properties of materials, as well as the Ultrasonic Scanning machine, capable of detecting damage delamination between each layer of composite materials hidden below the surface.

I gratefully acknowledge the financial support of Tokyo Metropolitan Government (TMG) and the valuable advice from my supervisors in TMU and JAXA. I believe our research work on stitched composites will greatly improve the composite materials currently used on aircraft structures and has great application value to the aviation industry.

本学で学ぶ、アジア人材育成基金留学生は以下ホームページ (アジア人材バンク) にて紹介されています。

<http://www.asianhumannet.org/student/index.html>